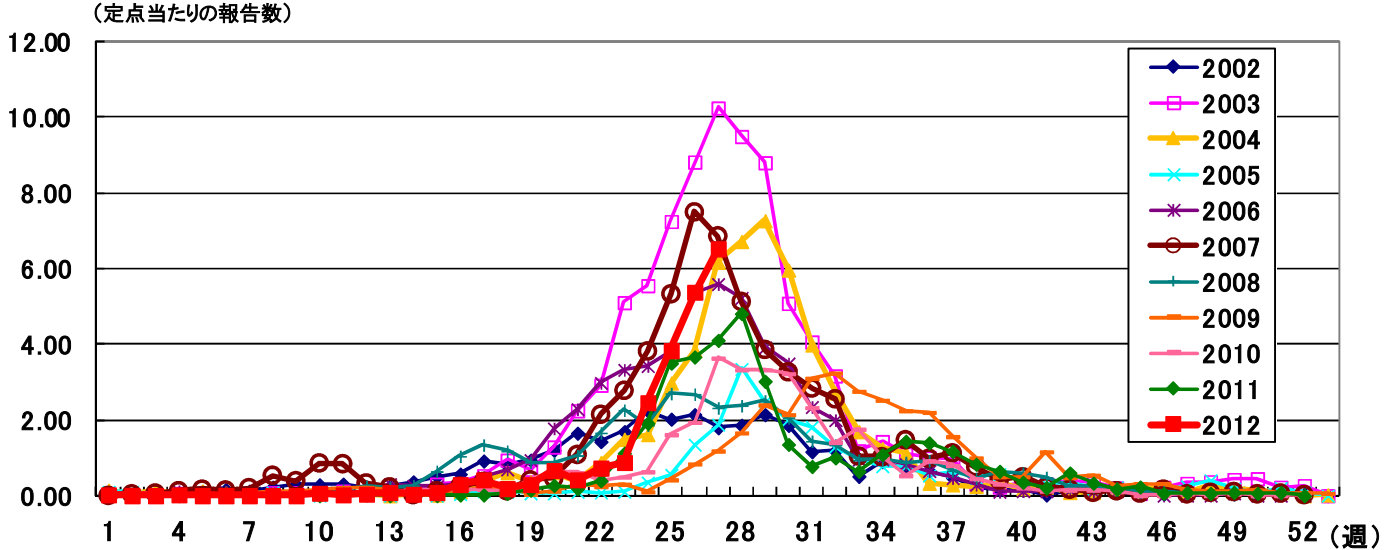


ヘルパンギーナの流行状況

※山口県のヘルパンギーナの定点あたりの報告数は第27週に6以上となり、警報レベルの開始基準値を上回りました。

1. 各年の発生動向

2002～2012年（第27週現在）までの各シーズンの発生動向を示したグラフです。第24週以降急増し、2007年以來5年ぶりに定点あたりの報告数が6以上となりました。

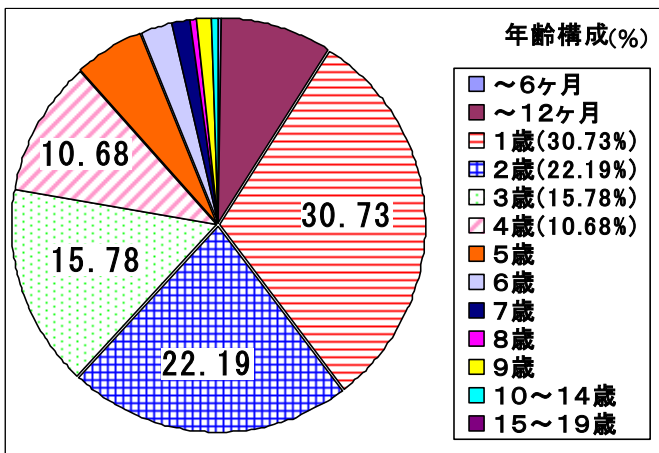


2. 病原体検出状況

山口県環境保健センターの検査ではコクサッキーウイルス A2 型 5 件、コクサッキーウイルス A4 型 1 件が検出されています。昨年はコクサッキーウイルス A6 型 7 件、コクサッキーウイルス A10 型 2 件、コクサッキーウイルス A4 型 1 件が検出されました。

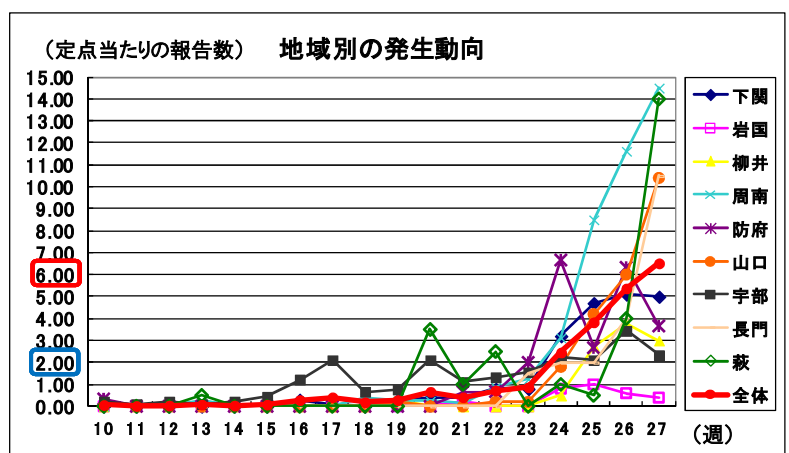
3. 年齢構成

下のグラフは、2012年（第27週現在）の年齢構成を示したものです。例年同様に1歳からの報告が最も多く、続いて2歳、3歳、4歳からの報告が多くみられます。



4. 地域別発生動向

下のグラフは地域別の発生動向を示したものです。第24週に防府、第25週に周南、第26週に山口が警報レベルとなり、今週新たに萩と長門が警報レベルとなりました。



5. 全国の傾向

全国的にも増加傾向がみられます。第26週現在の定点あたりの報告数は2.27でした。詳細は国立感染症研究所感染症情報センターのページをご覧ください。参考URL:<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>